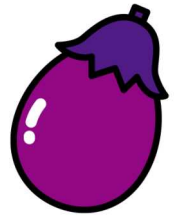
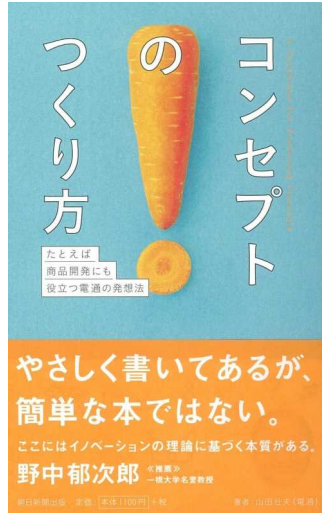


ナスビの学校



「総合的な学習の時間」で自分のキャリアを考える 「コンセプトのつくり方」



宮崎大学教育学部附属中学校の3年生は、自分が将来やってみたい仕事を創造(イノベーション)する探究活動に取り組んでいます。

自立した学び

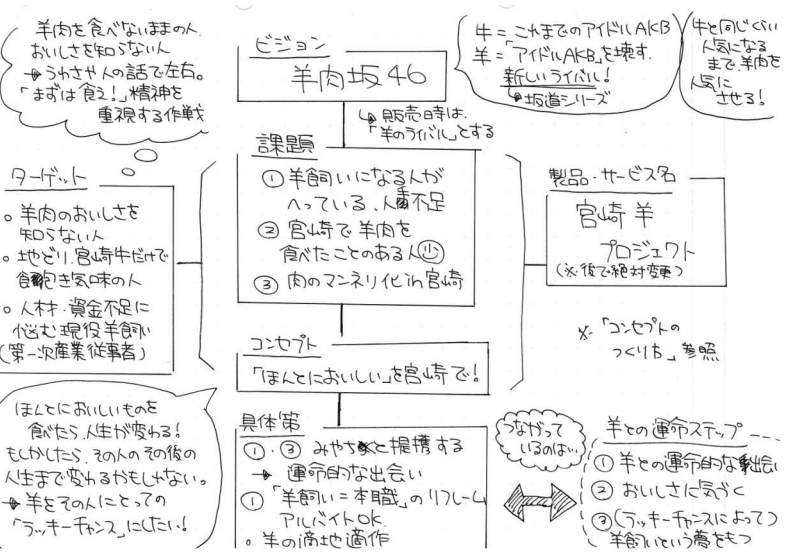
ある生徒は、夏休み前、一冊の本と出会いました。『コンセプトのつくり方』(山田壮夫・著)という本です。この本には、人々のニーズを感じ取り、まだ誰も考えたことのないアイデアを創り出していくための方法が書かれています。この生徒は、当初、「コンセプトのつくり方」を知りたくて、この本を読んでいたわけではありませんでした。この本の中に登場する事例を参考にするために読んでいました。

8月19日(月)の登校日、提出された研究論文の下書きを見て驚きました。

なんと「やさしく書いてあるが、簡単な本ではない」と評されたこの本を読み解き、「コンセプトのつくり方」を自分の力で身につけて、自分の探究活動に応用していたのです。大人でも「読んだことを実行にうつすことが難しい」と言われるなか、中学生がそれを実行にうつしていたことが素晴らしい。自立した学びを体現した生徒の姿がありました。

「コンセプト」を見てみましょう。ワクワクするような未来を感じ取ることができるとなっています。

この生徒が、将来、本当にこの仕事を創造するかどうかは、正直、分かりませんが、いろいろな偶然と出会い、そのなかで、また新たな仕事を創造していくのかもしれない。しかし、この夏自分で身につけた「方法」がずっと自分の中に残り続



「コンセプト」を見てみましょう。大事ですが、その一方で、自分で努力して学び取っていく姿勢を大切にしたいものです。

一度、「自分」というフィードバックを通すことによって学んだ内容が「自分のもの」になっていくといえます。「コンセプトのつくり方」という名の「ナスビの売り方」を見つけた生徒の、これからの探究活動に注目が集まっています!

探究にとりつかれました。

夏休みに入る直前の7月、生徒たちは4月からの自分の学びの記録を見直し、自分の成長を確認するレポートを書きました。これからは「何ができるか」はもちろん「何をしてきたか」が求められてきます。このレポートをつくるという学習は、自分にとって意味のある資料を大切に保管し、それらを根拠に自分の成長を自分で語れるようになる力を身につけていくための取り組みです。さて、3年生のある生徒は、レポートのなかで、次のようなことを書いていました。紹介します。

「4月から7月までを振り返って、私は『探究活動』に取りつかれ、『探究活動』に依存症'になってしまいました。国語のスピーチのテーマも『動物』、作文のテーマも『動物』と、探究活動の世界に入り込み過ぎたなど少し反省をしました。SDGや自分の研究活動は、身の回りで使うことは良いことだと思うが、夏休み明けからは、もう少し視野を広くし、様々な角度から物事を見ていきたい

と思う。そして、広い視野をもちつつ、探究活動も今までよりさらにレベルアップできるように頑張りたいです。」
「主に総合的な学習の時間によって、私自身は大きく成長することができました。たくさんの方のお話を聞く機会があり、「幸せ」について、自分の短所から長所を生み出すことについて、そして「大学入試」についてなど、たくさん自分の自分のキャリアに関わるお話をいただきました。それによって、私のキャリアも少し変わりました。この4か月は、私自身と私のキャリアを明るく照らしてくれた4か月でした。」
「自分はこれからどう生きていくのか」という、誰もが直面する「難問」に正面から向き合い、悩み、考え、「キャリアのつくりかたや考え方」を学んでいくのが総合的な学習の時間を中心とした学びです。
学校のなかにあるたくさん人の学びを散らかすことなく、自分と結び付けていく習慣をさらに強くしていくことができるといいですね。